

持続可能な社会の実現に向けて

昨今、私たちを取り巻く環境の変化はそのスピードを増し、先行きの予測が困難な時代となっています。企業は利益を確保しながら、相互関係にある社会に対し、自社の活動が与える影響について責任を持たなければなりません。三愛オブリグループは、健全かつ透明性の高い経営のもと、環境課題・社会課題に柔軟に対応し、持続可能な社会の発展へ貢献することで企業成長を果たすとともに、ステークホルダーのみなさまからの信頼をより確かなものとしていきます。

SDGsとは

2015年に国連総会で採択された「持続可能な開発目標(Sustainable Development Goals: SDGs)」は、2030年に向けて解決すべき世界の課題(17の目標、169のターゲット)で構成された世界共通の目標です。



領域	主な取り組み内容	関連するSDGs	参照ページ
環境 Environment	再生可能エネルギーの活用／循環型社会への貢献 <ul style="list-style-type: none"> 環境配慮型製品の拡販 遊休地における太陽光発電事業 風力発電システムへの貢献 再生可能燃料の取り扱い推進 および水素供給設備の研究・投資 カーボンニュートラルLPガスの販売 電気自動車の導入 「三愛オブリの森」体験型環境研修 PRTR法に該当しない商品の製造販売 化学物質の適正管理 バイオマス発電効率化に向けた総合ソリューション提供 産学連携「縦渦式風車、水車」 		P.15-16
	省エネルギー・省資源の追求 <ul style="list-style-type: none"> 工場、SSからの排水管理 ISO14001認証継続 LPWA導入による配送効率化を通じたCO₂削減 雨水の利用 SSにおける「ECO通気口」の設置 防錆・防カビ剤の開発・販売によるVOC排出量低減 省エネルギー診断 環境負荷データの集計 		P.17
社会 Society	労働慣行／人権 <ul style="list-style-type: none"> 有給休暇取得の推進 化学物質のリスクアセスメント 品質保証委員会 年金ライフプランセミナー 人材育成・各種研修 国内留学制度 次世代育成への取り組み 健康経営の推進 人権教育 女性社員活躍の推進 安全運転講習 ダイバーシティ研修 		P.18-21
	社会コミュニティへの参画 <ul style="list-style-type: none"> 地域活動、イベントへの協賛 ボランティア活動 学生活動支援 災害対応SS 災害時における自治体との燃料供給協定(SAS、需給部) 		P.21-22
ガバナンス Governance	組織統治 <ul style="list-style-type: none"> 取締役会 サステナビリティ委員会 監査役会 指名・報酬諮問委員会 内部統制委員会 コーポレートガバナンス・コード開示 決算説明会 		P.23-24
	リスクマネジメント <ul style="list-style-type: none"> リスクマネジメント委員会 従業員安否確認サービスの運用 内部監査 環境安全監査 		P.25
	コンプライアンス推進 <ul style="list-style-type: none"> コンプライアンス委員会 コンプライアンス意識行動調査の実施 公益通報・相談窓口の運用 コンプライアンス教育 ハラスメント防止教育 		P.26

環境



資源とエネルギーの効率的利用を追求するとともに、環境負荷の抑制に取り組みます。

環境ビジョン

「三愛オブリグループの倫理行動憲章」より下記の4つを環境ビジョンとしています。

- 私たちは、地球の環境を健全な状態で子孫に残すため、環境に配慮します。
- 私たちは、省エネルギー活動、廃棄物削減活動、リサイクル活動を通じて、環境への負荷の抑制、削減に取り組みます。
- 私たちは、エネルギー供給を担う者の責務として、資源とエネルギーの効率的利用を追求し、環境負荷の低い新エネルギーの開発・普及を推進します。
- 私たちは、企業活動の中で安全を最優先に考え、人や環境に対し危害を及ぼさないよう最大限の努力を払います。

再生可能エネルギーの活用／循環型社会への貢献



SAF*の受入・給油に協力

航空事業部

三愛オブリ(株)航空事業部では持続可能な航空燃料(SAF)の受入・給油に協力しています。

航空業界では、気候変動の課題を解決しカーボンニュートラルな社会を実現するために、SAFの利用を進めています。

SAFは廃食油や植物油、バイオマス糖、微細藻類等を原料とし、現在7種類の製造技術が承認されています。化石燃料由来のジェット燃料と比べ二酸化炭素排出量を最大80%削減できます。またドロップイン燃料として既存の航空機エンジンや航空機給油施設、給油車両をそのまま活用できるため、追加投資が必要ないことが特徴です。

当社は2020年よりタンカーで3回SAFを受入れ、既存ハイドラントシステムを通じて航空機へ給油したほか、実証実験等で製造された国産SAFの給油にも協力しました。

* SAF: Sustainable Aviation Fuel。原材料から燃焼までの過程でCO₂の排出量が少ない供給源から製造されたジェット燃料。



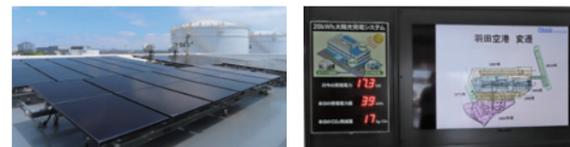
受入れ前の品質検査

既存設備での燃料受入れ

太陽光発電システムを設置

航空事業部

航空事業部では、2022年2月より事務所の屋上に108枚のパネルを設置し太陽光発電システムの運用を開始しました。本設備の年間発電予定量は約24,000kWhで、事務所の照明電気使用量の約20%にあたります。今後も再生可能エネルギーの割合を高めるため増設を検討しています。



屋上に設置した太陽光パネル

発電量をリアルタイムで表示

車両からのCO₂を削減

航空事業部

航空事業部では車両からのCO₂排出量の削減に取り組んでいます。

給油車両等の大型のディーゼル車両4台で非化石燃料(リニューアブルディーゼル*)の使用を開始しました。また普通車両1台を電気自動車に置き換えています。

* リニューアブルディーゼル: 食品と競合しない廃食油などで作られた燃料で、従来のバイオディーゼルとは異なり、軽油に混ぜず単体で利用可能。高い環境性を生み出す。



電気自動車用 急速充電器

カーボンニュートラルLPガス 販売開始

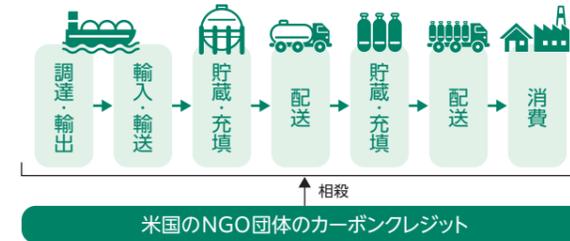
ガス事業部

化石燃料の中でも、相対的にCO₂の排出量が少ないLPガスですが、脱炭素への動きが加速する中、さらなる低炭素への要望に応えるべく、ガス事業部ではカーボンニュートラルLPガスの取り扱いを開始しました。

このカーボンニュートラルLPガスは、採掘から消費に至るまでに発生するCO₂を米国のNGO団体が認証したカーボンクレジットで相殺しているため、カーボンフリーの燃料として使用することができます。

三愛オブリ(株)ガス事業部では、複雑なカーボンオフセットの仕組みについて、今後販売店向けに勉強会を実施するほか、CO₂排出量の削減目標を掲げる需要家のニーズに応えるべく提案を強化していきます。

LPガスのライフサイクル(バリューチェーン)



「排水浄化型洗車機用液剤」

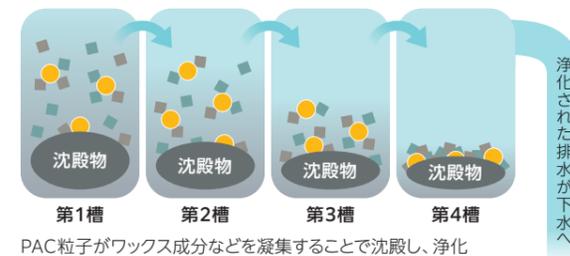
化学品事業部 化学品部 研究所

サービスステーションの洗車機排水は油水分離層(4槽構造)に送られ、沈殿物を除いた部分が下水として処理されています。研究所で開発した洗車機用の洗剤には、ポリ塩化アルミニウム(PAC)という凝集剤が含まれており、分離せず水中に溶け出した油性成分であるワックスやコート剤の成分を凝集させ沈殿させることができます。その結果、環境に対する影響(特にノルマルヘキサン抽出物質)の低減につながっています。

研究所では、さらなる環境負荷低減を目指し製品開発を進めています。

排水浄化のイメージ

● PAC粒子 ■ ワックス成分 ■ コート成分



PAC粒子がワックス成分などを凝集することで沈殿し、浄化

水素エネルギー社会の実現に向けて

— 水素ステーションの建設 —

三愛オブリテック(株)

三愛オブリテック(株)は、東亜合成(株)様が運営する「東亜合成水素ステーション徳島」を建設しました。この水素ステーションは、日本で初めての製造・供給直結型で、水素輸送時のCO₂排出が少なく、カーボンニュートラルな社会に高く貢献しています。三愛オブリテック(株)では、これまで全国7カ所の水素ステーションを建設しています。



東亜合成水素ステーション徳島 © 東亜合成株式会社

WCI ECOSYN

ガスエンジンオイルの販売開始

エネルギーソリューション事業部 潤滑油販売部

2021年10月、当社はベルギーの合成潤滑油メーカー WIPA Chemicals International N.V.と代理店契約を締結し、主にバイオマス発電所向けに順調に販売を拡大しています。



PICK UP

「三愛オブリの森」体験型環境研修

三愛オブリグループは、化石燃料を取り扱う企業の責務として自然環境の保護に努め、森林再生事業に協賛しています。2008年より「三愛オブリの森」体験型環境研修を開催し、グループ社員が実際に間伐を体験するなど、現地での交流を深めています(2020年度、2021年度は新型コロナウイルス感染症の影響により開催を中止しました)。

高知県、本山町および本山町森林組合と「協働の森パートナーズ協定」を締結

2008年4月より	15年目	間伐体験者数	395名
協定を結んだ森	202.08 ha	間伐により再生した森が吸収したCO ₂	4,325t



省エネルギー・省資源の追求

関連するSDGs



天然ガスへの燃料転換による環境負荷の低減

エネルギーソリューション事業部 天然ガス部

天然ガス部では、段ボール加工事業の大手・王子コンテナ(株)九州北工場様(佐賀県三養基郡)の工場用ボイラーについて、A重油から天然ガスへの燃料転換を提案し、2021年2月から同社に天然ガスの供給を開始しました。



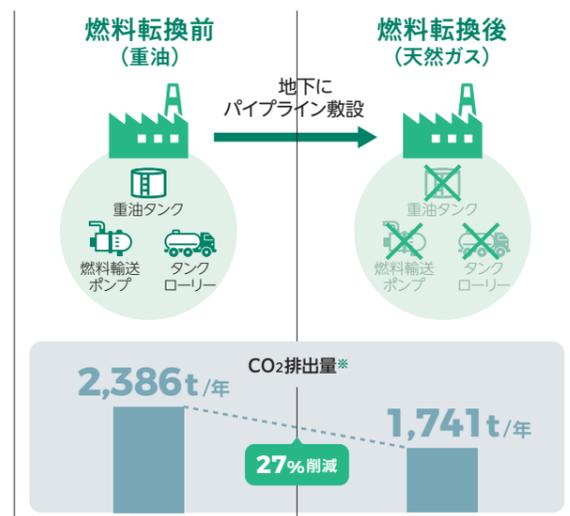
天然ガスは燃焼時のCO₂排出量が少ないほか、大気汚染の原因物質であるNO_xやSO_xの排出についても優位性が高く、環境負荷を低減できるエネルギーです。さらに天然ガスをパイプライン供給することで重油タンクが不要になり、土地の有効活用が可能になるほか、ローリー車両の交通遅延や事故、燃料漏洩など複数のリスクを同時に排除することが可能となりました。

大気汚染原因物質の排出量比較

	石炭	石油	天然ガス
CO ₂ (二酸化炭素)	100	80	60
NO _x (窒素酸化物)	100	70	20~40
SO _x (硫黄酸化物)	100	70	0

出典：「IEA(国際エネルギー機関) Natural Gas Prospects to 2010, 1986」

燃料転換による設備等の変化



ユニフォームをマテリアルリサイクル*へ

航空事業部

航空事業部では、使用済みのユニフォームを「マテリアルリサイクル」し、資源の再循環に取り組んでいます。回収されたユニフォームは、破碎・反毛・フェルト加工等をし、自動車の断熱材や防音材として再資源化されます。



*マテリアルリサイクル：廃棄物を新たな製品の原料として再利用するリサイクル方法。

SDGs事例発表会

三愛オブリ(株)

三愛オブリグループでは、持続可能な開発目標SDGs達成に向けた取り組みをグループ全体で共有することで、グループ社員がSDGsの重要性を改めて認識するとともに、その活動の推進を図るため毎年SDGs事例発表会を開催しています。

2022年5月27日に開催された同会では、11の事例が紹介され新たな気づきや視点を得る機会となりました。



SDGs事例発表会

配送の合理化を実施

化学品事業部

化学品事業部では、タンクローリーを用いてお客さまへ溶剤や揮発油等を納入しますが、共同配送などにより、配送回数を削減しています。

2021年度は、年間配送回数が32%削減する取引先も出てくるなど、物流業界の人手不足と、軽油燃焼に伴うCO₂排出削減に貢献しています。

SDGs・ESGの取り組み

社会



関連するSDGs



労働慣行／人権

会社の財産は何よりも人です。会社の発展と個人の幸せの一致を図るため、社員教育やダイバーシティの推進、メンタルヘルスを含む健康経営の取り組みを実施するとともに、すべての人々の人格を尊重し、一切の差別やハラスメントを許さず、個人のプライバシーを保護します。

人材マネジメント

社員教育・研修制度

三愛オブリ(株)では、経営理念である三愛精神のもと、自主的・自律的な人材を育てるためさまざまな研修制度を整え社員の成長を支えています。コロナ禍ではありますが、感染状況を注視しながらリアルとオンラインを使い分けた柔軟な研修環境で人材育成に取り組んでいます。

2021年度 研修体系図

	階層別研修	能力開発・スキルアップ 選抜型研修	資格取得研修	社員教育 DX関連	社員教育 自己啓発	社員教育 本社勤務
役員・管理職	ダイバーシティ&インクルージョン研修 管理監督者向け人事評価運用研修	シニア シニアキャリアアップ研修				
役員による研修	新任管理者研修 課長補研修 係長役研修	一般社員・管理職 グループ会社出向者研修				
中途	キャリア採用者研修	一般社員 研修課オンラインサロン トレーナー養成研修	3級自動車整備士講習	eラーニング	国内留学・女性社員通塾セミナー立志塾・通信教育・eラーニング	英会話選抜型ビジネスクラス
新入社員(3年目)	3年目社員研修 2年目社員研修 新入社員フォローアップ研修 新入社員研修	一般社員 OJTリーダー研修 債権管理研修 安全運転講習	高圧ガス販売2種資格取得研修			

DX(デジタルトランスフォーメーション)教育

三愛オブリ(株)では、ITリテラシーの向上を図るため、全社員にDXに関するeラーニングを実施しています。DX推進による業務改革への本格着手へ向け、将来のDX人材を育成すべく社員の学びを促進しています。

従業員意識調査(エンゲージメントサーベイ)

エンゲージメントは「組織や自分の仕事に対し自発的な貢献意欲を持ち、主体的に仕事に取り組んでいるか」を表した指標であり、近年重要なテーマとなっています。

三愛オブリ(株)では働きがいのある職場づくりと個の能力を最大限に発揮できる人材マネジメントに向け2021年10月に初の試みとしてエンゲージメントサーベイを実施しました(回答率97%)。今後も定期的にエンゲージメントサーベイを実施し、中長期的な視点で組織づくりに役立てていきます。

ダイバーシティの推進

「ダイバーシティ&インクルージョンセミナー」開催

社会の変化に対応し新しい価値を創造していくためには、多様な価値観やバックグラウンドを持つ人材の能力を最大限引き出し、多様な人材が活躍できる環境整備が必要です。経営層を対象として開催した本セミナーは、今後、変革を生む挑戦的な組織風土づくりの一助として全社員に展開し、全社的なダイバーシティの推進により経営基盤の強化を図っていきます。



講師: 株式会社クオリア
代表取締役 荒金雅子様



D&I推進について話し合う経営層

女性社員フォーラム

三愛オブリ(株)では、女性社員一人ひとりが個人の能力を発揮し活躍できる職場づくりのために女性社員フォーラムを開催しています。2021年度は「ワークエンゲージメントとは何か」「高いモチベーションの背景にあるものは何か」など自らと向き合うテーマについて考えました。また当日の基調講演はグループ会社もオンラインで参加するなど、グループ全体でダイバーシティの推進が図れるよう取り組みが広がっています。

障がい者雇用「わーくはびねす農園」

三愛オブリ(株)では、障がい者雇用および活躍支援に取り組んでいます。安全で清潔に運営されている農園では、障がいのある方が安心して自分らしく働くことのできる就業環境が整えられています。

ピアボーナス制度 Share Obbli(シェアオブリ)導入

2022年3月、三愛オブリ(株)はピアボーナス制度※「Share Obbli」を導入しました。従業員エンゲージメントや働きがい高めるとともに、企業理念「三愛精神」の深化を目指しています。社員が送り合ったポイントはSDGs目標に即したNPO/NGO法人へ寄付とすることで、個人の貢献が社会貢献に繋がる仕組みとなっています。

※ピアボーナスとは:社員同士がWEB上で感謝や称賛、労いのメッセージに少額のポイントを添えて送り合い、組織全体で共有できる仕組み。

女性活躍推進法ならびに次世代育成支援対策推進法に基づく行動計画

三愛オブリ(株)では、2021年4月1日～2024年3月31日までの期間において、以下の行動計画を着実に実行すべく取り組みが進められています。

総合職新卒採用人数に占める女性比率の目標と推移

目標: 30%以上

2019年度	2020年度	2021年度
22.2%	26.3%	31.3%

配偶者出産時休暇取得率の目標と推移

目標: 80%以上

2019年度	2020年度	2021年度
81%	69%	91%

配偶者出産日から前後10日以内に取得した休暇を含む

育児休業・介護休業制度の充実

三愛オブリ(株)では、ワーク・ライフ・バランスへの取り組みとして、育児介護と仕事を両立しやすい職場環境づくりに努めています。育児休業制度に関しては法定を上回る水準で制定しているため、社員は安心して産休に入り、復帰後は短時間勤務等を利用して活躍を続けています。

育児両立支援制度	子どもが3歳になるまで取得できる休業制度。子どもが小学校2年生の終期まで勤務時間を1日2時間まで短縮できる制度。
介護休業制度	家族が常時介護の必要がある場合に通算93日間まで取得できる休業制度。家族が常時介護の必要がある場合には、利用開始から3年間1日2時間の勤務時間を短縮できる制度。

キャリアアップ支援制度

三愛オブリ(株)では、女性社員の長期的・戦略的な仕事観の醸成やマネジメントスキルなどの能力開発を支援する制度を整えています。

- 女性社員向け通塾型セミナー「立志塾」
- 明治大学「女性のためのスマートキャリアプログラム」

立志塾に参加して

受講生の年齢幅が広く、異業種ということもあり、各自が抱える問題についてさまざまな視点で解決方法を話し合い、模索する体験をしました。女性役員の方の講演もあり、過去の体験を基に、多くの障壁をどのように乗り越えたかという実例を直接聞くことができ、自身の志を見つけ、今後どのように進んでいくべきなのか考える機会を頂きました。

ガス事業部
藤田 由紀恵さん



キャリア採用者研修

人材の多様性や即戦力確保を目的としキャリア採用を継続実施しています。異なるバックグラウンドを持つキャリア採用者に対し、自社への理解を深め、期待されている役割を再認識してもらうとともに、社内ネットワーク形成の一助とすべくキャリア採用者研修を行っています。

キャリア採用者研修に参加して

部門を越えた意見交換を通じて「他部門で培われてきた価値観」も吸収していくことが今後の自分の成長に繋がるのだと実感しました。また今回の研修は会社のSDGsへの取り組みについて詳しく知る機会にもなり、自身のSDGsに対する意識向上の一助となりました。

航空事業部
荒木 成治さん



健康経営

三愛オブリグループ健康基本方針

私たちは、心と身体の健康を重要な課題として社員が働きやすい環境を整え、継続的で計画的な健康づくりを推進するとともに、一人ひとりが自らの健康意識を高め家族を含めた健康増進に積極的に取り組みます。

「健康優良法人2022」 三愛オブリグループ5社が認定

三愛オブリ(株)は「健康経営優良法人2022」(大規模法部門)に6年連続で認定されました。また、同中小規模法部門に三愛オブリガス中国(株)、三愛オブリガスサービス中国(株)の2社が初めて認定され、前回より認定されている佐賀ガス(株)、三愛オブリカスタマーサービス(株)と合わせて4社が認定を受けることとなりました。

三愛オブリグループでは、従業員の健康を重要な経営課題と位置づけ、心と身体の両面から継続的な健康づくりを目標とし、健康経営を推進していきます。



健康経営戦略マップの策定

三愛オブリ(株)では産業医、保健師と自社の課題を分析し重点課題に取り組むため健康経営戦略マップを作成しています。

健康経営戦略マップ

経営課題	最終的な目標指標	健康課題	健康投資施策の取組状況に関する指標	2022目標値	2021目標値	2021実績	健康投資2021年度の取り組み			
人材確保・育成	身体的な幸福度向上 プレセンティイイズム 低減	従業員の健康づくりのための取組み	運動	肥満率を下げる	29.0%	31.0%	29.5%	●BMI30以上を対象に積極的保健指導 ●特保への参加勧奨(健保+事業所担当者)		
			①生活習慣病対策	週に2日以上軽く汗をかく30分以上の運動をする従業員を増やす	38.5%	36.0%	37.8%	●eラーニング実施 ●アプリを活用した学習コンテンツ ●ウォーキングキャンペーン(健保主催)		
				食事	週に3日以上、就寝前2h以内に食事をする従業員を減らす	30.0%	34.0%	31.1%	●交代勤務のある社員への個別保健指導 ●保健師による衛生委員会講和 ●アプリを活用した学習コンテンツ	
			禁煙	②喫煙率の低減	喫煙率を下げる	16.7%	26.0%	24.5%	●健診事後措置対象者への個別フォロー ●禁煙外来周知 ●喫煙所閉鎖(航空事業部国際線事務所)	
		睡眠	③睡眠の改善	睡眠が十分とれていない従業員を減らす	15.0%	25.0%	23.8%	●DVD視聴「働く人の睡眠と健康」 ●eラーニング実施		
		生産性の向上	エンゲージメント向上のための取組み	ストレス対策	④ストレス対策	ストレスチェック(実施率)	100%	100%	96.6%	●ストレスチェックの実施・分析・フォロー ●eラーニング実施
				有給休暇取得率	⑤有給休暇取得率向上	目標シートによる管理(取得率)	70%	70%	55.3%	●目標シートによる管理
女性の健康	⑥女性の健康			女性の健康に関するセミナー(参加率)	-	-	14.7%	●子宮頸がんセミナーの開催		
		離職	⑦発達障がい、メンタルヘルスの理解	管理監督者向けセミナー(参加率)	-	-	58.5%	●発達障がいセミナーの開催 ●eラーニング実施		
			離職率	-	-	5.1%				

社会コミュニティへの参画

関連するSDGs



三愛オブリグループは、良き企業市民として社会とのコミュニケーションを促進し、地域社会貢献活動に参画します。

保安認定事業者に登録

三愛オブリガス播州(株)

三愛オブリガス播州(株)は、無線等の通信手段を利用したLPガス集中監視システムを供給先の約55%に導入し高度な保安体制を構築していることから、兵庫県知事より保安認定事業者(第二号認定LPガス販売事業者)に認定されています。緊急時には一般消費者等のガスメーターを遠隔で遮断できるなど、お客さまに安心してLPガスをご利用いただけるよう努めています。

佐賀大学熱気球部の活動支援

三愛オブリ(株)

三愛オブリ(株)では、佐賀大学熱気球部へバルーン(熱気球)を寄贈しています。熱気球部発足当時、バルーンがなく困っている学生へ貸与したことが始まりです。現在、熱気球部は、佐賀インターナショナルバルーンフェスタのほか、全国の大会へ積極的に参加し活躍しています。



「空き家見守りサービス」スタート

佐賀ガス(株)

地域に密着した都市ガス事業者として、佐賀ガス(株)では「空き家見守りサービス」をスタートいたしました。相続等により近年空き家の増加が地域課題となっています。建物や屋外設備、庭木の確認などお客さまの大切な資産を巡視見守っています。



「市村自然塾 関東・九州」の活動に協賛

三愛オブリ(株)

市村自然塾は、リコー三愛グループの創業者である市村清の生誕100周年を記念し設立された非特定営利活動法人です。小学4年生から中学2年生までの塾生が、農作業を中心とした自然体験活動や共同生活を通して、規律性・自主性・創造性を育てています。三愛オブリ(株)は、同塾の活動を法人会員としてサポートしています。



有志社員による「ビーチクリーン大作戦」

航空事業部

SDGs「海の豊かさを守ろう」の具体的な活動として、航空事業部の有志社員とその家族が神奈川県三浦海岸で清掃活動を行いました。収集したごみはボランティア団体「かながわ海岸美化財団」により回収されました。



有明海 シチメンソウ群生域を清掃

佐賀ガス(株)ほか

有明海の干潟には、シチメンソウ(七面草)という貴重な塩生植物が群生しており、その貴重な生態系が将来にわたって維持されるよう毎年、海岸線を中心に清掃活動が行われます。佐賀県を拠点とする三愛オブリグループ各社は、サガテレビが主催する「ACT CLEAN清掃活動」に参加し、有明海的环境美化に取り組みました。



マスコットキャラクター「森川海人くん」 干潟に群生するシチメンソウ

コンタクトレンズの空ケースリサイクル

三愛オブリ(株)ほか

三愛オブリグループでは、コンタクトレンズの空ケースを回収し再資源化する「アイシティ ECOプロジェクト」に取り組んでいます。回収されたコンタクトレンズの空ケースは、再資源化による環境保全、障がい者の自立・就労支援、日本アイバンク協会への寄付に役立てられています。



高知県高知市 子どもまちづくり 基金助成金事業「こうちこどもファンド」への協力

三愛オブリカスタマーサービス(株)

「こうちこどもファンド」は子どもたちが自発的に自分の住む町を良くするために活動できるよう支援する制度で、三愛オブリカスタマーサービス(株)は、同事業へ2013年より協賛し活動を応援しています。



「優良危険物取扱者表彰」受賞

石油事業部 需給部 東京オイルターミナル

「優良危険物取扱者」とは、危険物の安全管理に顕著な功労があり、他の模範となる危険物取扱者であることに加え、消防関係法令の違反がなく5年以上にわたり無事故で自主保安管理が積極的であると認められる取扱者のことです。2022年5月、東京オイルターミナルが埼玉県八潮市防火安全協会定例総会において本表彰を受けました。



東京都写真美術館に協賛

三愛オブリ(株)

東京都写真美術館(目黒区三田)は、日本および海外の優れた写真・映像作品を展示する日本初の総合美術館です。三愛オブリ(株)は、同館が新進作家の発掘と育成、国際交流の促進など将来世代に向けた活動を数多く実施していることに賛同し、日本における写真・映像文化の充実と発展のために協賛を続けています。

ガバナンス



組織統治

関連するSDGs



経営の効率性と透明性の向上に努め、コンプライアンス経営に徹します。また、業務の適正を確保するための体制を整備し、危険物を取り扱う企業として危機管理と事業継続計画の強化に努めます。

内部統制基本方針

三愛オブリ(株)は会社法および会社法施行規則に基づき業務の適正を確保するための体制を9つの項目で整備しています。

内部統制基本方針

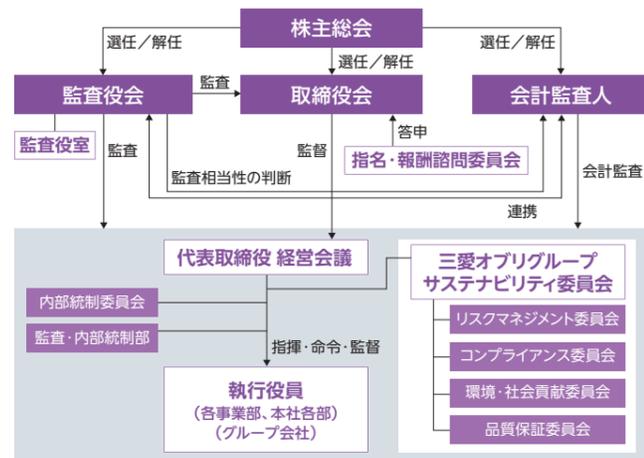
- | | |
|--|--|
| <ul style="list-style-type: none"> 1 取締役・使用人の職務執行が法令・定款に適合することを確保するための体制 2 取締役の職務の執行に係る情報の保存および管理に関する事項 3 損失の危険の管理に関する規程その他の体制 4 取締役の職務の執行が効率的におこなわれることを確保するための体制 5 当社および子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制 6 監査役がその補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する体制ならびにその使用人の取締役からの | <ul style="list-style-type: none"> 7 取締役および使用人が監査役に報告するための体制ならびに子会社の取締役、監査役および使用人が親会社の監査役に報告するための体制、また報告をした者が当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを受けないことを確保するための体制 8 その他監査役による監査が実効的におこなわれることを確保するための体制、および監査役による職務の執行について生ずる費用の処理に係る方針 9 反社会的勢力を排除するための体制 |
|--|--|

全文はホームページをご覧ください <http://www.san-ai-obbli.com/ir/internal/>

コーポレートガバナンス

三愛オブリグループでは実効性の高いコーポレート・ガバナンス体制を構築し、その仕組みを重層的に運用することで業務の適正を確保しています。

コーポレート・ガバナンス体制図(2022年4月1日現在)



2021年度 重要会議の開催状況

取締役会	10回
監査役会	9回
経営会議	48回
指名・報酬諮問委員会	4回
内部統制委員会	5回
三菱石油グループCSR委員会	4回
危機管理委員会	4回
倫理委員会	12回
環境安全委員会	5回
個人情報管理委員会	4回
品質保証委員会	2回

取締役会の実効性評価

当社グループでは、取締役会が適正に機能しているかを定期的に検証し、課題の抽出および改善に努めています。詳細は、コーポレート・ガバナンス報告書にて開示しています。

社外取締役および社外監査役

社外取締役は、多様な知見・経験を活かして業務の執行に対し意見を述べ、重要な決定プロセスに関わっています。また社外監査役は、取締役の職務の執行状況を把握するとともに、会計監査の適法性および財産の状況を公正な立場で調査しています。いずれの社外役員も東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定されています。

コーポレートガバナンス・コード <http://www.san-ai-obbli.com/ir/governance/>

三愛オブリ(株)は2022年6月、東京証券取引所にコーポレート・ガバナンス報告書を提出し情報開示をいたしました。

役員一覧 (2022年10月1日現在)

 金田 準 代表取締役会長	 塚原 由紀夫 代表取締役社長 社長執行役員	 大沼 尚人 取締役 専務執行役員 経理部・経営企画部・ 情報システム部担当	 隼田 洋 取締役 常務執行役員 エネルギーソリューション 事業部門担当 エネルギーソリューション 事業部長 兼 化学品事業部門担当 化学品事業部長
 佐藤 孝志 執行役員 人事総務部・法務審査部・ サステナビリティ推進部担当 人事総務部長 兼 法務審査部長	 須藤 晃 執行役員 航空事業部門担当 航空事業部長	 石井 浩一郎 執行役員 ガス事業部門担当 ガス事業部長 兼 ガス販売部長	 杉浦 克徳 執行役員 石油事業部門担当 石油事業部長 兼 卸売販売部長
 上野 篤志 常勤監査役	 松村 淳一 常勤監査役	社外取締役 高橋 朋敬 取締役 中川 洋 取締役 鵜瀬 恵子 取締役	社外監査役 豊泉 貫太郎 監査役 渡邊 秀俊 監査役



リスクマネジメント

関連するSDGs



三愛オブリグループでは、リスクの把握と対応策を検討するリスクマネジメントを徹底するとともに、危険物施設の安全管理に万全を期し、安定したエネルギー供給のため事業継続計画を推進しています。

リスクの選定

三愛オブリグループサステナビリティ委員会では、事業を行う上で重要な影響を与える可能性のあるリスクを選定し対応策および予防策を検討しています。以下は2022年6月時点で当社が入手可能な情報に基づき判断したリスクの一例です。

1. 市場環境の変化について
2. 大規模感染症について
3. 災害等について
4. 投資等について
5. 情報セキュリティに関するリスク
6. 製品の品質および安全性に関するリスク
7. 保有有価証券について
8. 地政学的リスクについて
9. 法的規制関係について
10. 個人情報に関するリスク

三愛オブリグループ防災の日

リスクマネジメント委員会・危機対策本部

三愛オブリグループでは、毎年9月1日を「三愛オブリグループ防災の日」と定め、拠点ごとに危機対応訓練を実施しています。実施結果はリスクマネジメント委員会で報告され、リスクの未然防止に役立てられています。



LPガス充てん所
緊急遮断弁作動確認訓練



タンクの散水・鎮火作業



安全点検(漏洩確認)

油槽所危機対応訓練

キグナス石油(株)

キグナス石油(株)は2021年11月16日に名古屋油槽所、2022年4月5日に高砂油槽所、2022年4月22日に金沢油槽所において危機対応訓練を実施しました。各油槽所の貯油能力はそれぞれ19,000kl、61,000kl、10,000klで、火災や漏洩事故が起きた場合の被害は甚大であり、常に安全操業が求められます。

今回の訓練では、軽油出荷ポンプ本体カバーが割れ軽油が漏れ出すシナリオ、レギュラーガソリンの移送ホースが割れ揮発油が噴出するシナリオ、内航タンカーから船場荷役中に配管からハイオクガソリンが漏洩するシナリオで行われ、有事の現場対応能力を確認しました。



高砂油槽所での訓練の様子

従業員の安否確認

「震度5弱」以上を観測した地域における従業員と家族の状況を把握するため、レスキューナウ社の「安否確認サービス」をグループ全社に導入し有事に備えています。同サービスは地震以外の豪雨・強風等にも対応可能なことから、昨今多発する地域災害にも活用されています。

毎年2回以上の訓練を実施することで社内の報告体制(レポーティングライン)の確認を行っています。



コンプライアンス推進

関連するSDGs



「企業倫理・コンプライアンスの確立」は安定的な企業活動を行うための基盤と位置づけ「三愛オブリ倫理行動憲章」の周知に努めるとともに、公正な取引を通じてより良い社会づくりに貢献します。

コンプライアンス委員会

2022年4月、倫理委員会と個人情報管理委員会を統合しコンプライアンス委員会を設置しました。

コンプライアンス意識の高い企業風土の醸成と不祥事の未然防止のために、毎月コンプライアンスNEWSを発行し社員教育を行っています。

2021年度に発行したコンプライアンスNEWS

発行	No.	テーマ
2021年 4月	189	車両事故撲滅の取り組み
2021年 5月	190	倫理行動憲章について
2021年 6月	191	コロナ差別防止のために
2021年 7月	192	業務プロセス見直しと内部統制の有効性確保について
2021年 8月	193	公益通報・相談窓口
2021年 9月	194	労働災害防止のために
2021年10月	195	基幹システムの入替えについて
2021年11月	196	コンプライアンス意識行動調査結果
2021年12月	197	就業時間外のグループチャットについて
2022年 1月	198	情報セキュリティの脅威
2022年 2月	199	ハラスメント研修の実施(番外編)
2022年 3月	200	アルコールチェックの義務化

コンプライアンス意識行動調査

毎年実施している「コンプライアンス意識行動調査」では、自分自身の行動を振り返るとともに、所属組織や職場環境についての率直な意見が集まってきます。グループ会社においても同様の調査が行われるようになり、各社のコンプライアンス担当者は調査結果をもとに自社の課題に対応しています。

倫理に関する「誓約書」

三愛オブリグループは6月8日を「倫理の日」と定め、役員・全従業員が「倫理行動憲章」に基づき、誠実さと倫理観を持って日々の業務にあたることを経営責任者に誓約しています。

環境安全監査

サービスステーションやLPガス充てん所など多くの危険物施設を所有する当社グループは、法令以上の厳しい自主基準を用いた独自の環境安全監査を毎年実施し、PDCAサイクルを運用しています。

環境安全監査の推移

	監査実施事業所数	指摘件数	是正完了
2019年度	230	179	179
2020年度	228	215	215
2021年度	272	147	146*

* 灯油計量機入替。現在メーカー納入待ち。

公益通報・相談窓口

コンプライアンス経営の強化のため公益通報・相談窓口を設置し、不正行為などの早期発見と是正に努めています。「公益通報者保護に関するガイドライン」において、通報者が不利益な取り扱いを受けない仕組みを整えています。

通報件数の推移

	件数
2019年度	6件
2020年度	8件
2021年度	4件